

小学六年

国語

解答と解説

1

問一	i	
	工	21
	ii	
	オ	22
	iii	
	ア	23

問二	暴	
	カ	
	で	
	相	
	手	
	を	
	傷	
	つ	
	け	
	る	24
問三	イ	25

問四	麻	
	子	
	さ	
	ん	
	の	26
問五	④	
	工	27
	⑧	
	イ	28
問六	工	29

問七	A	
	右	
	B	
	左	30
問八	ウ	
問九	ア	31
	ア	32
問十	そ	
	う	
	す	
	る	
	。	33

2

問一	1	
	研	
	究	
	対	
	象	34
	が	
	2	
	何	
	事	
	に	
	も	
	一	35

問二	1	
	工	36
	2	
	イ	37
	3	
	ア	38
問三	こ	
	の	
	世	
	界	
	で	39

問四	ア	
	イ	
	ウ	(等分)
	エ	
	オ	
問五	④	40
	ウ	(等分)
	⑨	
	ア	41

(配点)

- ①〔問一〕各2点、〔問五〕各3点、他各5点
  - ②〔問二〕各2点、〔問六〕7点、他各5点
  - ③④⑤各2点
- } 計150点

		<b>5</b>		<b>4</b>		<b>3</b>				問六									
⑥	65	①	60	①	55	①	50	問七	46	問八	47	問九	48	問十	49	42	43	44	45
宿敵	65	観衆	60	暗	55	ウ	50	知	46	自	47	工	48	ウ	49	る	に	自	常
⑦	66	②	61	②	56	②	51	的	46	由	47	エ	48	ウ	49	よ	よ	由	識
脳波	66	待機	61	質	56	才	51	好	46	に	47	ウ	48	ウ	49	う	っ	に	に
⑧	67	③	62	③	57	③	52	奇	46	に	47	ウ	48	ウ	49	に	て	思	対
階層	67	草創	62	顔	57	ア	52	心	46	な	47	ウ	48	ウ	49	な	、	考	し
⑨	68	④	63	④	58	④	53	問八	46	る	47	ウ	48	ウ	49	る	理	で	て
貧	68	情操	63	無	58	イ	53	自	46	と	47	ウ	48	ウ	49	と	屈	き	能
⑩	69	⑤	64	⑤	59	⑤	54	分	46	い	47	ウ	48	ウ	49	い	を	る	動
垂	69	益虫	64	報	59	工	54	が	46	う	47	ウ	48	ウ	49	う	持	よ	的
								こ	46	意	47	ウ	48	ウ	49	意	っ	う	に
								れ	46	味	47	ウ	48	ウ	49	味	て	に	問
								問九	46	。	47	ウ	48	ウ	49	。	説	な	い
								工	46		47	ウ	48	ウ	49		明	る	直
								問十	46		47	ウ	48	ウ	49		で	こ	し
								ウ	46		47	ウ	48	ウ	49		き	と	、

【解説】

1 蟹江杏の『あの空の色がほしい』（河出書房新社）から出題しました。

周囲から「変わった子」として扱われ、学校でも少し疎外感を覚えているマコ（麻子）は、絵を習っているオッサン（吉本太）のことをバカにされたことがきっかけで、相手の男の子にタックルして顔を引っかき、ペンケースを窓の外に投げ捨ててしまいました。本文はこれに続く場面です。

問一 B1 関係づけ 比較

適切な副詞を空らんに入れる問題です。

i 男の子（西岡修）にけがをさせてしまったことに関する話し合いに、マコがママが遅れてやってくる場面です。担任の清水先生と小野先生、相手の親子がいる中で加害者であるマコが座っている場面ですから、ひとりぼっちでいる様子に合わせて、エ「ポツリと」が入ります。

ii 修の母親から机を叩きながら事件のあらましを聞いたマコは、「申し訳ありませんでした」「ペンケースも弁償させていただきます」と申し出ています。これとあわせて頭を下げている場面ですから、オ「深々と」が入ります。

iii iii の直前に「全部を理解できたわけではないし、納得できたわけでもない。けれど、あきらめない」とあり、この部分からマコが決意をしたのだと読み取れます。これにともなう口を強く閉じたのだと考えられるので、ア「ぎゅつと」が入ります。

問二 B1 具体化 関係づけ

マコの頭を後ろからグイッと押している時のママの気持ちを問う問題です。ママは自分だけでなくマコにも頭を下げさせようとしています。空らん直後の「行為」「かばってやるわけにはいかない」という表現から、マコが西岡修に対してしたことを十字でまとめた表現が入ります。この場面では明らかになっています。3ページ下段で、マコと話す際にママは「どんな理由があっても暴力で相手を傷つけることはしないでほしい」と語っており、今回はマコがそのような行為をしてしまったため擁護のしようがなく、理由はどうあれまづは誠心誠意謝らせるほかはないと考えていることがわかります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問三 B1 具体化 比較

線②の直前で、修の母親は「よそのおたくの教育方針に口出すつもりはないけど」と前置きしておきながら、「あんなところに通わせるなんておやめになったほうがいいんじゃないかしら」とずいぶん立ち入ったことを言っています。明らかに「余計なお世話」ですが、この場面ではマコは加害者であり、言い返せるような立場や雰囲気ではありません。問二でも見たようにママはひとまずこの場を穏便に切り抜けようとしているので、長いまばたきをしている間になんとか自分の気持ち（怒りや悔しさ）をおさえようとしているのだと読み取れます。したがってイが正解となります。ア「きちんと向き合って受け止める」、ウ「反省している姿勢を見せ

ておく方が得」、エ「反論を考える時間をかせよう」がそれぞれ誤っています。

問四 **B1** 具体化 関係づけ

修の母親に机をたたきながらどなられ、うつむいている時の小野先生について問う問題です。登場人物の考えや気持ちについて知りたい時は、まずその人物の「発言」や「動作」に注目しましょう。特に「発言」にはその人物の気持ちが分かりやすく出ることがあります。この後で「ご自分の責任、あなた、わかつてんの？」と問い詰め非難された小野先生がいつもより少し大きな声で発言している内容に注目します。「今回のことを止めることができなかったことは自分に責任がある」「麻子さんのやったことは絶対にあつてはならないことだった」という内容を述べた後で、「でも麻子さんがどうしてそんなことをしてしまったのか、ちゃんと麻子さんの話も聞いてあげるべきだと思います」と小野先生は主張しています。これらと字数の条件、前後のつながりをふまえ、「麻子さんの話も聞いてあげるべきだ」が正解となります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問五 **A2** 知識 比較

語句の意味を答える問題です。原則として辞書の意味がもとになっており、それをふまえて文章中での意味をとらえましょう。知らなかった言葉がある場合は、できるだけ例文の形で覚えるようにしましょう。

④「語気を強めて」は、印象を強めたり主張を相手に届けたるために口調をきつくする様子を表す表現です。怒りの気持ちで相手を非難する時や、自分の決意を強く相手に伝えたい時などに使われます。

⑧「理不尽」は、「理が尽くされていない」、すなわち道理に合わない、筋道が通っていない、という意味の表現です。「理不尽な目にあう」「理不尽な要求を拒否する」などのように使われます。

問六 **B1** 関係づけ 比較

修の母親がいろいろな人に対して厳しい姿勢で詰め寄るのを見て、マコは「自分がやったことなので自分以外の人が怒られているのが耐えられない」と感じています。したがって、エが正解となります。イ「修のしたことも理解してくれ」は、「私がやったことなので他の人は悪くない」という文脈に続く内容としてはふさわしくありません。

問七 **A2** 知識 関係づけ

線⑥直前の「着任して三年目」「若さゆえ」などの表現から、「先生としてどのように振る舞うべきかきちんと理解できている」という意味の語句になることがわかります。Aに右・Bに左が入り、「右も左もわからない」という語句が完成します。

問八 **B1** 具体化 比較

線⑦の直前で、小野先生は修に小さな声で「どうして

麻子さんが修くんを引つかいたか、理由、わかるよね？」とやさしく語りかけています。言われた修も、反論せずにつむいている様子から、自分が麻子のことや麻子の通う美術教室の先生であるオッサン（吉本太）をバカにしたことが原因だと理解しているのでしょう。ただし、この場面では修の母親が声を荒らげているいろいろな人に責任を追及していますから、修としては「自分にも非があつた」とは認めづらいでしょう。したがって、ウが正解となります。ア「自分の母親がマコのママや先生たちに対してえらそうにするのが恥ずかしくて」、イ「真意がわからず」、エ「強気になって先生を無視してやろうと思つている」がそれぞれ誤つています。

問九

**B1** 理由 比較

マコはママから言われた言葉について、「全部を理解できたわけではないし、納得できたわけでもない」と感じています。それでもママの真剣な様子から「この言葉は大事なんだ」と思つている様子はうかがえ、ママの言う通りにしようと思つていることが読み取れます。したがって、アが正解となります。「一般にカタカナ表記は「その言葉に対するなじみのなさ」を表すことをおさえておきましょう。

問十

**B1** 関係つけ

抜けている文を元の場所に戻す問題です。まずは抜けている文そのものから「その文の前にあるはずの情報」「その文の後に続くはずの情報」を考え、本文のどのあたりの話かある程度見当をつけてから探しましょう。

「だからマコも一言も逃さないように聞く」という文から、

この直前に誰かがマコに対して真剣に語りかけている様子があることが分かります。それを意識して探すと、3ページ下段に、ママがマコの前髪をかきあげながら話をする場面が見つかります。

**2**

戸谷洋志『哲学のはじまり』（NHK出版）から出題しました。

哲学とはどのようなものなのか、それによつて何ができるのか、ということ初学者にも分かりやすく説明した文章です。

問一

1

**B1** 理由 比較

筆者は「哲学」を「変な名前」と表現した後で、比較対象として「生物学」「社会学」を挙げています。これらの学問は「その名前を見れば、それがどんな学問か分かるものですが、「哲学」はそうではありません。研究対象が学問の名前としてついている、という内容の表現は7ページ上段に出てきています。

2

**B1** 具体化 関係つけ

「○○から哲学が始まった」「哲学の始まりは△△であった」という内容を意識して探しましょう。7ページ下段に「そうした営みから、哲学は始まったのです」と書かれています。指示語をていねいにたどり、字数条件と合わせて解答を確定させましょう。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問二 **B1** 関係つけ 比較

空らんにあてはまる接続詞を考える問題です。選択肢になつていて接続詞そのものの働きを確認し、前後内容と照らし合わせてふさわしいものを選びましょう。

《1》の直前には、自分がどうしても勝てないプレイヤーがどんな個性的な指し手なのか想像を膨らませる、という内容が書かれています。これに対し直後には、実はそのプレイヤーは人間ではなく、AIであることがわかった、という内容が続いています。事前に想像していたものとは異なる内容が続いていますから、エ「ところが」が入ります。

《2》の直前には、「哲学する前と後は違う」という内容が書かれています。これに対し直後には、「哲学すること、それまでなぜ正しいのかを考えもしなかった常識を、自分の理屈を持って説明できるようにするから」と、理由を説明する表現が続いています。したがって、イ「なぜなら」が入ります。

《3》の直前には、「哲学をただ知識としてだけ学んでいる人には、応用が利かない」という内容が書かれています。これに対して直後には、「カントの哲学を暗記した人」の例が挙げられています。したがって、ア「たとえば」が入ります。

問三 **B1** 関係つけ

将棋の例では、相手のプレイヤーが人間ではなくAIだった時に、「当たり前」が問い直される様子が説明されています。

その時に問い直されるのがどのような「当たり前」なのか

②に入るわけですが、その内容はすぐには出てきません。9ページ上段で人工知能の話に戻ったところで「当たり前」について述べられています。「人工知能」当たり前を問い直すというキーワードをもとに、同じ話題を扱っている場所を選んで探すようにしましょう。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問四 **B2** 具体化 比較

デカルトの言葉については、8ページの上下段にわたって説明されています。新しい知識を与えてくれる科学と違って、哲学は「当たり前」とされてきたことの新しい側面に光を当てるものです。そうすることで自分に思い込みがあったことに気づき、思考する自由を得て、自分なりに判断ができるようになるのだということが述べられています。したがって、ウ・オが正解となります。ア「科学よりも人間の本质に近づいていく」、イ「常識に隠れた新たな真実」、エ「しよせん私たちに理解できるのは人間に知り得る範囲の事実だけ」がそれぞれ誤っています。

問五 **A2** 知識 比較

④は、子どもに常識を教える大人が「とにかく世の中はそうなっているから」と、理由をきちんと説明することなく押し付ける様子を説明するために使われています。したがって、ウ「問答無用」が入ります。⑨は単に知識を持つているだけの人とそれを活用している人の違いを説明するうえ

で、知識を持っていてだけでなく活用している人はどんな質問に対しても応用を利かせた回答ができる、という文脈で使われています。したがって、ア「首尾一貫」が入ります。

問六

**B2** 具体化 推論

——線⑤の直前に「ここに」という指示語があります。これは直前の段落の内容である「常識を問い直すことで、常識に対して能動的な態度を取ることができるようになる」「常識について、自由に思考できるようにする」という内容を指しています。この部分を中心とするか、あるいは——線⑤以降にある「それまでなぜ正しいのかを考えもしなかった常識を、自分なりの理屈を持って説明できるようにする」などを使つてまとめましょう。

※設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点2点とします。

問七

**B1** 置換

「当たり前」に疑問を持つことで何かが生みだされている、という内容を意識して探しましょう。7ページ下段に「普段『当たり前』だと思っていることに、ふと疑問が生じるることによつて、知的好奇心が湧いてくるのです」とあります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問八

**B1** 理由 関係づけ

日常の会話より哲学の議論の方が分かりやすい、とする筆者の主張の根拠について説明する問題です。空らん直後の「目を向けるため」に注目し、哲学の議論が何に目を向けようとしたものであるかを説明した部分を探します。9ページ下段に「『当たり前』を問い直すということは、そのように、それまで気づいていなかったことに、意識を向けることを意味します」という表現が見つかります。「それまで気づいていなかったこと」では字数の条件を満たさないののでさらに周辺を探すと、次の段落に「自分がこれまで意識していなかったこと」という表現が見つかります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問九

**B1** 理由 比較

——線⑧のカントの言葉における「哲学」とは、直後に説明されているような「すでに完成された知識の体系」としての哲学のことです。カントが言いたいのは、哲学は完成という状態にたどりつくことがなく、常にそれぞれが日常を深く問い直し思考することで常に新しくなっていくものである、ということなのです。したがって、エが正解となります。ア「哲学のあつかう範囲は大勢の人間が束になってかかってしまうとめきれないほど広がる」、イ「ハードル自体が高くなってしまう」、ウ「相手と同じレベルの知識が必要」がそれぞれ誤っています。

問十

**B2** 抽象化 比較

本文の内容と合っているものを選ぶ問題です。それぞれの選択肢が本文のどの部分の内容と対応しているかを考え、必ず本文にもどって選択肢と照らし合わせ、一つずつ正誤を判定しましょう。

ウは9ページ上下段で述べられていることと一致していません。

また、ア「いづれ人間の知性を軽く上回るものになる」、イ「新しい常識を作り直すことが最大目標になる」、エ「専門的な知識は必要なく」がそれぞれ誤っています。

**3**

**A1** 知識

故事成語の意味として最も適しているものを選ぶ問題です。それぞれの故事成語の意味だけでなく、どのような場面で使用われ、どのような言葉とよく一緒に用いられるか、ということとも合わせて覚えておきましょう。

**4**

**A1** 知識

□に適する漢字を入れて四字熟語を完成させる問題です。四字熟語や慣用句、ことわざなどは、音だけで覚えるのではなく漢字もふくめて覚えるように意識しましょう。同じ読みの別の字と取り違えないようにすることが大切です。